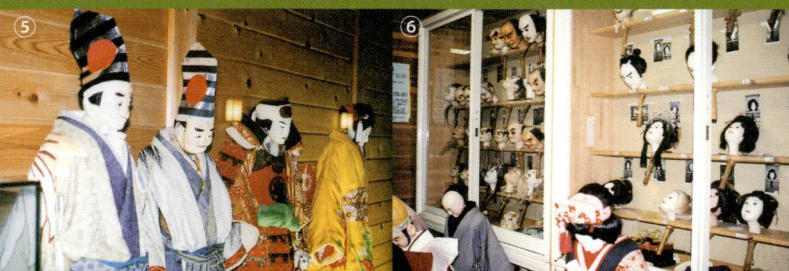


伊那人形芝居

明日へつなぐ伝承のチカラ



各座の三番叟 ①今田人形座 ②黒田人形保存会 ③古田人形芝居保存会 ④早稲田人形保存会 ⑤～⑧命が吹き込まれる出番を待つ人形たち



伝統文化シネマとは

人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗芸能・行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。このような優れた無形の伝統文化を、「伝統工芸の名匠」「伝統芸能の粋」「民俗芸能の心」シリーズとして記録映画を制作しています。

人間国宝の卓越したわざ、各地域に

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

<http://www.polaculture.or.jp>

「伊那人形芝居」の見どころ 有泉 寧(映像監督)

半年にわたる取材を通して、私たちはこの伊那人形芝居の‘伝承のチカラ’とは何かを問い続けながら、彼らの活動を追った。ひとくりに「伊那人形芝居」と呼ぶが、そのルーツはそれぞれであり、見どころも違う。

早稲田人形保存会は高齢化が一番進んでいるが、最も古い形を残しているという。しかし、注目の太夫は今年入座したばかり。実は、公演前には子供のように震えて緊張されていたが、一座を担う重責よりも、義太夫の楽しさに魅了されたのだろう、生き生きとした高座だった。

今田人形座では、「伊達娘恋緋鹿子」の独創的な「ろうそく公演」の美しさに感動させられた。また、96歳現役最長老の太夫・金井さんが、中学生とコラボするという伝統芸能ならではの人の絆が育っていることを感じさせてくれた。

黒田人形保存会は、「手」という動きの規範を伝えることで、正確に伝承してきた。それは独特の所作を生みだし、「三番叟」の腰振りなども独創を重ねたものだという。

古田人形芝居保存会では、若い後継者が小学校や中学校で子供たちを熱血指導している。伝統的な所作は途絶えたものの、今新たな伝統が生まれる現場に遭遇し感動を覚えた。そして、風除け祈願の「三番叟」は、実に200年ぶりに奉納上演していただくことができた。

四座それぞれを丹念に捉えた画面から、彼らの工夫と活動、それを創造する情熱、そんなものを感じ取っていただければ幸いである。



箕輪西小学校古田人形クラブによる
「傾城阿波鳴門(けいせいあわのなると)」



高陵中学校黒田人形部による
「傾城阿波鳴門(けいせいあわのなると)」



今田人形座復活の烽火となったろうそく芝居
竜峡中学校今田人形座の
「伽羅先代萩(めいぼくせんたいはぎ)」



阿南第一中学校早稲田人形クラブによる
「三番叟・創作 田番叟(たんぱそう)」



本番に備えて練習する人形クラブの
子どもたち



日頃の成果を発表する三味線研修生たち



リハーサルで必死に取り組む子どもたち



中学生と一緒に太夫を務める
最長老の金井さん(右から2人目)



クライマックスシーンで子どもたちによる
‘おひねり’でひとときわ盛り上がる

◎映画内容

長野県伊那谷に約300年前から継承されてきた「伊那人形芝居」。かつては40近くあった人形座は、今では四座(黒田、今田、古田、早稲田)を残すのみとなったが、危機に瀕するたびに創意工夫で蘇らせ、新たな生气で苦難を乗り越えてきた。

そこには常に計り知れないほどの人形への熱い‘情熱’と強い‘想い’が流れており、人形そのものの魅力と芝居の面白さは、時代を超えて人々の心を捉え、生活の支えにもなっていた。そして、技術のみならず人形に込めた‘情熱や想い’が一つの文化となり、地域コミュニティやアイデンティティを形成してきたのである。まさに‘伝承のチカラ’そのものであった。

〈伊那人形芝居の由来〉

*古くから人形を舞わせて神々に豊作や豊漁、疾病・災害除を祈ることが行われていた。戦国末から徳川初期にかけて浄瑠璃が生まれ、三味線が考案されて三技が一体となった。1650年前後に伊那谷へ人形芝居が入ったが、全盛を誇った人形芝居もこの頃流行った歌舞伎に観客を奪われ急速に衰退。生活の道を絶たれた人形遣い達は、地方人形の盛んな場所へと流れ、伊那谷にもそうした人形遣いが入って各地に多くの人形座ができ、伊那谷は全国有数の人形座の密集地域と化した。しかし、その後儉約令や上演禁止令、鑑札制度によって多くが姿を消し、今では黒田、今田、古田、早稲田の四座を残すのみとなった。

*やがて激動の時代に入って四座も次第に先細りとなり、S30年頃には風前の灯であったが、龍江村長の呼びかけでS31年、早稲田、今田、黒田の三座合同公演が実現。更にS57年、四座の合同発表会、翌年には「伊那人形芝居保存協会」が設立された。そうした中で、S48年から地元中学に人形クラブが続々と生まれ、若い担い手が育ってきている。

企画 財団法人 ポーラ伝統文化振興財団
製作 株式会社 日経映像
監修 三隅 治雄(芸能学会会長)

〈製作スタッフ〉

製作 佐野 文男
脚本・監督 有泉 寧
撮影 大手 洋行
大木 大介
菅 良太
山森 義明
助監督 牛込 政雄
VE 東海林智恵
武田 司
湯原 直樹
望月 紀彦
編集 伊東 修一(東京テレビセンター)
MA 門倉 徹(東京テレビセンター)
音楽・効果 山崎 茂之
語り 上條 恒彦

〈撮影協力〉

長野県阿南高等学校
阿南町立阿南第一中学校
飯田市立竜峡中学校
飯田市立高陵中学校
箕輪町立箕輪中学校
箕輪町立箕輪西小学校
義太夫 竹本土佐恵
三味線 鶴澤寛輔